

平成29年（2017年）の
戦略的視座

戦略的視座の詳細

スポーツ活動を通じた健康づくりや医療費抑制

- こうした潮流を踏まえた環境づくりは必須

特徴ある地域施設と連携

- 武田薬品iPS研究所、東レ基礎研究所
- 公民連携による健康関連プロジェクト
- これらによって深沢地区の魅力や持続可能な成長を促す

大学や専門機関と連携した健康づくり実証実験

- 事例：山形県村山市や東京大学の取組
- ウェアラブル端末の進化を活用する ※この分野の民間企業とも連携

ここに住む住民の誰もが健康で生き生きと暮らせる

- 歩いてみたい、散歩したいと思えるウォーカブルなまちづくり
- ランドスケープの視点から展開する

公民連携によるスポーツを通じた健康支援施策開発の方向性

- 公民連携による健康づくりプログラムの提供
- 次世代型ヘルスケアサービスシステムの追求
- 大学機関と連携した健康づくり実証実験の推進
- ウェアラブル機器を活用した市民の健康モニタリング・実証実験
- ウォーカブルを体現するまちづくり、ランドスケープデザインの具現

平成30年度
検討の視点

H29

健康まちづくりの方向性と領域を提示

H30

方向性の具体化、ウェルネスの領域と手法（テクノロジーなど）拡大、ウォーカブルにより健康をつくること、誘引・連携プレイヤーの具体化

「超高齢化対応としての健康まちづくりの具現」の方向性

平成29年検討の深掘り（一部見直し）
＝平成30年度見直しの視点

ウェルネス

× ウォーカブル

× 新たな潮流

ウォーカブルな環境づくりをベースに、新たなテクノロジーを柔軟に取り入れた健康まちづくり

市民

人生100年時代の多世代にわたる健康増進

- 「ウォーカブル＝歩くこと」で「健康になる」を実現する
- ターゲットの拡大：多世代・多様な層
(周辺～広域の居住者・来街者・ワーカー・老若男女)
- ウェルネスの領域を拡大する (暮らし、レジャー、スポーツ、文化、ビジネスなど)
- ウェルネス×テクノロジーをテーマとするハード・ソフトの具体化
- 生涯現役施策によるアクティブシニアの育成
- 心の健康にも配慮した健康増進
(交流、レジャー、マインドフルネス、禅など)



想定される取組事例

健康増進機能

健康になる、キレイになる、人生100年時代を実現する

- 健康・美容・未病施設：フィットネスクラブ、ウェルネスリゾートなど
- テクノロジーなどを活用し、最新のプログラム・サービスを提供



地域

地域の健康経営を牽引する基盤を構築する

- ウォークしたくなる魅力をつくるシンボルとなる環境を実現する
- 次代の鎌倉を担う「健やかな」人材の育成
(特に子供達がウェルネスを体験し学べるコンテンツの具体化)
- アクティブウェルネスを実現し、地域のにぎわいをつくる集客機能
- 健康活動を通じた、多世代・多様な層によるコミュニティづくり



想定される取組事例

歩きたくなる空間整備

富士山の眺望やテクノロジーを活用した環境づくり

- ウォーカブルのシンボルとなる街路の設置
- 富士山を様々に眺められる、撮影スポット



アクティブウェルネスをテーマとするにぎわい系機能

ウェルネスをテーマに物販・飲食・レジャー・エンターテインメントを集積

- スポーツやアウトドアをテーマとする物販 フィールド付など体験型を重視
- ファームパーク 農体験、ジャムづくり、食育、BBQ、グランピング
- スポーツエンターテインメント 遊びながらスポーツを体験する・学ぶ
- イベント マルシェ、スポーツイベント、…etc.



社会

ウェルネス×テクノロジーによるイノベーションの発信

- 国・県の施策（ヘルスケア・ニューフロンティア）との連携、大学・専門機関との連携の具体化
- 民間企業のノウハウ・アイデア・コンテンツを活用
- 公民学の連携・交流による新産業・人材の育成
- テクノロジーのさらなる活用
(研究や健康づくりだけでなく、暮らし・遊び・学びなどにも活用し、一般層がテクノロジーにふれるためのモチベーションをつくる)



想定される取組事例

健康になれる暮らしの場

住めば住むほど健康になる、多世代が住まい交流する

- スマートウェルネス住宅
- 居住者のバイタルデータ等を収集・分析
- スマートエネルギーシステムの採用
- シニア向け住宅



ヘルスケアシステム・健康プログラム

公民学が連携し、ソフトとして地区内や周辺地域で展開

- AIも活用した健康サービスを提供



コンセプトの具体化検討「アクティブ・スポーツの推進」

平成29年（2017年）の
戦略的視座

戦略的視座の詳細

シンボルとなる拠点・環境整備

- スタジアム・アリーナなど（経産省施策とも合致）
- スポーツイベントや興業等を通じた交流人口の活性化
- 市民向けのイベント・健康プログラム提供、文化事業展開

スポーツラボ

- 若者にスポーツの魅力を体感してもらうために、様々なスポーツへの参加の機会を提供する

総合型スポーツクラブ

- 市内には多数のスポーツクラブがあるが総合型は1カ所のみ
- 総合型スポーツクラブは地域スポーツの受け皿となり、多世代間の交流・コミュニケーションを生む

公民連携によるスポーツを通じた健康支援施策開発の方向性

- スタジアム・アリーナ等、まちの顔となるスポーツ施設整備
- 上記スポーツ施設を活用したスポーツ・文化プログラムの活性化
- スポーツラボ普及等による市民のスポーツ参加率の向上
- 市民のクラブスポーツの活動拠点・交流拠点

3

「多様なスポーツ文化の醸成」

平成30年度
検討の視点

H29

何らかの「競技系スポーツ」への参画機会
（行う・見るなど）をつくることを重視

H30

スポーツのジャンル・ターゲットの拡大（遊びから専門向けまで、スポーツになじみのない一般層からアスリートまで）、周辺地域も活用すること、スポーツタウンとしてのブランディング

「多様なスポーツ文化の醸成」の方向性

平成29年検討の深掘り（一部見直し）
＝平成30年度見直しの視点

スポーツ

コミュニティ

新たな潮流

自然環境を活かしたアクティビティや多様なスポーツ文化の浸透、コミュニティの形成によりQOLの向上を図るまちづくり

市民

スポーツを通じたクオリティ・オブ・ライフの向上

- 競技スポーツだけでなく、「遊ぶ」「体験する」「学ぶ」など領域を拡大、このまちが持つスポーツコンテンツ全体の魅力を向上
- 鎌倉の自然環境（山・海・公園など）を活用するアクティビティの検討



想定される取組事例

屋外空間を活用した誰もが気軽にスポーツを楽しめる機会と場の提供

- フットサル、ミニバスケ、アウトドアフィットネス、ボルダリングやヨガなど一般向けのコンテンツを展開
- 一般向けであることにより、同じ趣味を持つ仲間づくりも可能に
- 利用者のデータを収集・解析しながらクオリティ・オブ・ライフの向上につながる新しいプログラムを提供、同時に産学連携などにより新しいプログラムやベンチャー輩出も目指す
- スポーツカフェ・バーなどの設置も視野、パブリックビューイングや交流活動にも活用



地域

多様なスポーツ文化の浸透とコミュニティ形成

- スポーツ人材の育成（子供、次代のアスリート、次代の指導者）
- スポーツ・ウェルネス関連の新産業・人材の育成（「ウェルネス×テクノロジー」に関連する新ビジネス・ベンチャー企業、研究者など）
- 周辺の活用により、深沢だけでなく、周辺地域全体を、「スポーツ」「アクティブウェルネス」のあるまちとしてブランディング
- これらを通じたコミュニティの創出・育成（仲間づくり）



想定される取組事例

シンボルとなる拠点づくり

多目的に活用可能なアリーナ的施設やグラウンドなど

- スポーツ・イベント・エンターテイメントなど多目的な利用を想定
- イベント時や貸出時以外は、市民が気軽に活用できる場として一般開放を想定
- 市内のスポーツ交流拠点の場の整備
例：総合型スポーツクラブなど／市内スポーツ団体の活動や会合などに活用／指導者育成・交流なども視野



社会

スポーツ×テクノロジーによるイノベーションの発信

- 国・県の施策（ヘルスケア・ニューフロンティア）との連携、大学・専門機関との連携の具体化
- 民間企業のノウハウ・アイデア・コンテンツを活用
- 公民学の連携・交流による新産業・人材の育成
- アスリートの利用を視野に入れ、より先進的な施設を検討（アスリートのデータを蓄積、新たなスポーツビジネス産業創出へとつなげる（アスリートが来街することでまちのブランド価値も向上する））
- テクノロジーのさらなる活用（一般の方～アスリートまで、健康・運動能力などをビッグデータ化）
- 周辺企業・教育機関等とも連携しながら、新しいビジネスや新しいサービス・プログラムを開発する



想定される取組事例

プロ・アスリート向け施設

高度先端技術を取り入れたトレーニング・リハビリ施設、スポーツクリニックなど

- 専門性の高いトレーニング・リハビリが行なえる施設
- テクノロジーと融合したプログラムや（3次元解析など）、食・農などと融合したプログラム導入（アスリート食、健康食、グルテンフリーなど）
- 一般の方～アスリートまでの多様なデータを新しいスポーツビジネス開発に活用、新産業創出を目指す



コンセプトの具体化検討「メッセージ・産業の集積」

平成29年（2017年）の
戦略的視座

戦略的視座の詳細

民間事業者が
主体的に係る

- 投資を促す

人生100年時代にふさわしい
環境創出・産業育成

- 「スポーツ」「健康」「ライフスタイル」を結びつける
- 国・県の施策と連動し、県の支援を受ける
- スポーツ関連事業者を誘致する

国の政策との連動

- ウォークアブルまちづくり、コンパクトシティ
- スポーツ産業育成と地域経済牽引
- アリーナづくりによる経済・地域活性化
- 自動運転や無線給電技術等のインフラサービス

県による戦略的取組・支援

- 村岡新駅建設に向けた調整
- ライフイノベーション特区活用

スポーツ文化の醸成・発信強化

- Bリーグチームの誘致
- 多目的アリーナ、スポーツコミュニティづくり
- 新たなライフスタイルの発信

スポーツ関連事業者誘致

- 武田薬品・東レ・三菱電機との連携
- 東大スポーツ先端医療研究拠点誘致
- スタートアップ支援

ライフスタイル創出

- プロアスリートやスタッフも参加するスポーツコミュニティづくり
- 歩き、集い、憩うランドスケープと、商業を含むライフデザインの発信
- 新しい働き方、交流人口、プロジェクト人口の創造
- 創造的人材の定住

4

「先端ヘルスケア産業クラスターの形成」

平成30年度
検討の視点

H29

「クラスター」づくりのため、多彩な導入機能・プログラム・連携候補を抽出

H30

「クラスター」でありつつも、これらを統一する枠組み・コンセプトと、そのための場・しくみを検討し、深沢を鎌倉の新たな産業拠点へ

「先端ヘルスケア産業クラスターの形成」の方向性

平成29年検討の深掘り（一部見直し）
＝平成30年度見直しの視点

ウェルネス

× 新たな潮流

× 鎌倉らしさ

鎌倉の豊かな人材を活かし、先端ヘルスケア産業のイノベーションを発信するまちづくり

市民

人生100年時代のウェルネスなライフスタイルの実現

- 新しいワークプレイス（新たな産業拠点）づくり
（テクノロジーやウェルネスをテーマとした企業・ベンチャー・人材などの集積・交流）
（新しい働き方（テレワーク、職住近接、職・レジャー・スポーツ近接））
- 最先端のテクノロジー・ウェルネスをテーマとする新しい暮らしの場づくり
- 鎌倉・深沢を訪れる新しい「来街動機」づくり
（ビジネスのヒントを得る・仲間を探す、スポーツを学ぶ、最先端にふれる…etc.）

地域

イノベーションを生み出す基盤と人材の創出

- 村岡地区や新駅と一体となって鎌倉・藤沢、神奈川県の新拠点形成、広域に「テクノロジー×ウェルネス」を拡大していく
⇒京浜臨海部ライフイノベーション特区、さがみロボット産業特区の中間地点において、新たな産業イノベーション拠点となる
- 新産業・人材を育成（しつづける場としくみの創出）
- 新しいビジネスや人材が地域へ経済・雇用効果を創出

社会

先端ヘルスケア産業の集積によるヘルスケアイノベーションの新拠点形成

- 国・県の施策（ヘルスケア・ニューフロンティア）との連携、大学・専門機関との連携の具体化
- 公民学の連携・交流
- SDGs、テレワーク、地域団体、周辺企業との連携
- 民間企業のノウハウ・アイデア・コンテンツを活用

想定される取組事例

テクノロジーとウェルネスをテーマとする滞在環境

テクノロジー・ウェルネスを何らかの目的とする人々が暮らす、滞在するための施設

住宅、ホテル、サービスアパートメント

- 地区内や周辺のワーカー・研究者・クリエイター向け住宅、スマートウェルネス住宅など
→職住近接、ウェルネス・住近接を実現
- 出張や研修・交流目的のワーカー・研究者・クリエイターなどが利用するホテル、サービスアパートメント（中長期の滞在も視野）
→アスリート（トレーニングやリハビリ向け）や指導者・スポーツ関係者の利用も想定される



テクノロジーとウェルネスの「オープンイノベーション」拠点

テクノロジー・ウェルネスに関する企業・人材・アイデア・機会などが一堂に会し、新たなビジネス、ライフ＆タウンスタイルを創出、鎌倉の、日本の未来をつくるための場としくみ

オフィス機能

- オフィス、シェアオフィス、インキュベーションオフィス
- スタートアップ支援プログラム
- 湘南アイパークのサポート施設（別館など）としても想定



交流・マッチング・ラボ機能

- 居住者・来街者・ワーカーの交流の場
- ニーズとサービス、学生と企業、企業と企業、アイデア・機会・投資などが出会う場
- 「鎌倉リビング・ラボ」のノウハウ活用



ビジネスPR・ショーケース機能

- 地区内や周辺企業の製品・テクノロジーの展示
- 科学館やエンターテインメント施設的な展開（まち全体をミュージアムと見なすことも想定）

※事例：ソニーエクスプローラーサイエンス、パナソニックリサーチ



コンセプトの具体化検討「セーフ・防災・防犯の強化」

平成29年（2017年）の
戦略的視座

戦略的視座の詳細

有事における防災機能強化

- スポーツ施設を核とした防災機能強化
- 防災拠点としての当地区周辺住民の安全・安心の確保
- 各種施設における防災機能強化、環境づくり
- スポーツ施設の緊急避難場所または緊急医療拠点としての機能付加

交通事故の防止

- 主要道路配置の生活動線との分離
- ICTを活用した通過車両の抑制

犯罪防止

- 主要スポットへの監視カメラの設置

エネルギーの安定供給の確保

- エネルギー・通信のインフラ化・バックアップ化
- 自立分散型エネルギーシステムの導入
- 再生エネルギー機器の導入

■ まち全体の防災機能及び安心・安全機能整備の方向性

- 新市庁舎：有事の際の緊急対応の司令塔
- 商業・民間事業者関連施設：有事の際の食料備蓄倉庫化、避難場所としての役割
- スポーツ施設：有事の際の緊急避難場所、緊急医療拠点、食料備蓄倉庫
- 街中：監視カメラの設置、歩車道分離、通過交通抑制システム
- 自立分散型エネルギー、再生可能エネルギーとインフラ整備

平成30年度
検討の視点

H29

安心・安全まちづくりの方向性と領域を提示

H30

方向性の具体化、安心・安全の対象と手法（先進技術活用など）拡大、
エリアマネジメント・コミュニティづくりを見据えた施策の検討

「安全・安心なまちづくり基盤の構築」の方向性

平成29年検討の深掘り（一部見直し）
= 平成30年度見直しの視点

ハード

× コミュニティ

ハードとコミュニティをベースに、人々や地域全体の安全・安心をつくるまちづくり

市民

日常的な安全・安心の構築

- 交通安全性の向上〈トランジットモールなど〉
- コミュニティによる犯罪防止
- 高度先端技術を活用した犯罪防止
- 緑を活用した熱中症対策

地域

地区全体の防災拠点化のためのハード、ソフト対策の強化

- 地区内施設の防災における機能分担、役割分担
- 緑を活用したゲリラ豪雨対策
- 大規模災害時におけるエネルギー供給・通信・上水の確保

社会

持続可能なエネルギー利用と次世代インフラへの対応

- 地区全体の低炭素化・エネルギー効率の向上
- 再生可能エネルギーの導入
- 高度先端技術、次世代インフラへの柔軟な対応

※想定される取組事例は中間答申には載りません。

想定される取組事例

交通安全性の向上

- 歩行者優先の速度規制、交通規制



先進技術とコミュニティを組み合わせた防犯システムの導入

- 防犯カメラの設置
- 防犯・防災コミュニティ形成
- 高度先端技術を活用した防災情報の提供



熱中症対策

- 緑化促進
例：最低緑化率、夏の暑熱緩和を考慮した効果的な緑地配置、緑化
- 風の道の確保
例：風の通り道を考慮した道路計画、建物配置計画



想定される取組事例

災害に備えたインフラ・施設・空間整備

大規模災害時においてエネルギー供給・通信が途絶しない

- 中枢施設の高度な防災性確保
- 機能分担・役割に応じた施設・整備
- 災害時においても機能が維持できるシステムの導入
- 地区全体の防災計画、BCP作成

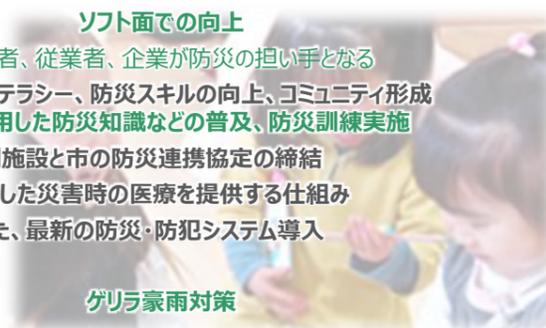
ソフト面での向上

居住者、従業者、企業が防災の担い手となる

- 居住者、従業者の防災リテラシー、防災スキルの向上、コミュニティ形成
⇒リアルとバーチャルを活用した防災知識などの普及、防災訓練実施
- 地区内外に立地する民間施設と市の防災連携協定の締結
- 近接する医療機関と連携した災害時の医療を提供する仕組み
- テクノロジーなどを活用した、最新の防災・防犯システム導入

ゲリラ豪雨対策

- 雨水浸透力の向上
例：雨庭、ストームウォータープランター等の設置
- 雨水貯留力の向上
例：調整池、雨水貯留槽の設置、屋上緑化など



想定される取組事例

- 街区単位のエネルギー供給システム
- 再生可能エネルギーの集中導入
- 効率的なエネルギーシステムの導入
- エネルギーインフラ・通信インフラの導入空間の確保



平成29年（2017年）の
戦略的視座

戦略的視座の詳細

■都市の魅力向上のためのランドスケープデザインに配慮した機能配置・環境づくり

- 電線地中化対応・エネルギーインフラ等の効果的配
- 建物のデザインや形状・色使い
- インフラ部分に関わるデザイン設計（公園の効果的配、公園機能や歩車道分離
- 防災・減災を踏まえた構造設計やデザイン検討

■居住者、来訪者にとっての街の価値向上

- 商業店舗や看板等の統一的デザインの検討
- ウォカブルなまちづくりの環境整備
⇒主要道路の計画的配置による歩行動線の安全安心確保
⇒サイクリングやランニング環境等に適した環境づくり
⇒時間消費できる環境提供による都市交流活性化の促進

■スポーツをテーマにライフデザインを創出するためのクオリティ・オブ・ライフを支援する環境創出

- 健康志向に特化したレストラン事業者の誘致
- ICTを活用した健康ポイント機能の導入、店舗間活用の仕組み
- 文化や芸術活動を営めるプログラムの打ち出し

■まちの価値を高めるためのランドスケープデザインやライフデザインの手法の方向性

- ランドスケープデザインを活かした都市環境（植栽、歩道、域内道路、建物配置、サイン・看板等の統一化、広告デザイン規制等）
- 公共施設や公園等の戦略的配置、主要道路・域内道路、サイクリングやランニングコース等の計画的配置（ウォカブルなまちの具現）
- エリア内における各種スポーツ機能・環境等の創出
- 健康ポイント等を活用した域内商業店舗との連携、サービスの進化

5

「ランドスケープデザイン&ライフデザインの構築」

平成30年度
検討の視点

H29 ランドスケープデザインの方向性と領域を提示

H30 ウォカブル、グリーンインフラ・エコロジー、コミュニティの視点強化

「ランドスケープデザイン&ライフデザインの構築」の方向性

平成29年検討の深掘り（一部見直し）
＝平成30年度見直しの視点

ウォカブル

エコロジー

テクノロジー
高度先端技術

ウォカブルとエコロジー、テクノロジーをベースに、まちの魅力を高めるランドスケープデザイン

市民

楽しく・居心地の良く、脅威の少ない空間づくり

- 街路のタイポロジーを考慮したウォカブルなランドスケープデザイン
（街路の階層的構造（大通り、小径・路地など）、階層に応じた沿道用途の配置）
- シンボル道路等人通りの多い空間の賑わい空間・交流滞在空間化
（沿道用途やオープンスペースの配慮）
- 安全にストレスなく利用できる十分な空間的ゆとり、バリアフリーに配慮した屋外空間の整備
- 建物と屋外空間の一体性創出
（建物ファサードや屋外空間のデザインコード調整）
- 歩行者ルート上の要所への発見の楽しみ配置
（彩りの樹々の植栽、滞留スペースや緑陰などの憩い機能、パブリックアートの設置、イベント等の魅力要素、スポーツ目的の歩行空間、自転車走行空間の確保など）
- 脅威の少ないまちの形成
（通り沿いやオープンスペースなどの夜間照明等の工夫、死角の除去、計画的・意図的な見守り視線の創出など）



想定される取組事例

歩きたくなるしかけづくり

- 十分な幅員の歩行空間整備
- 街区内歩行者動線整備による大街区の分節化
- 歩行者ネットワーク沿道への賑わい用途配置
- 界隈空間づくり



緑と建築が一体的となった街並み整備

- 緑と建築が調和し、一体となった街並みを整備。



地域

コミュニティ形成・健康増進に貢献する屋外空間

- スポーツや健康に対する取組を喚起するデザインや施設の設置。
- 企業、従業員、居住者の共同維持管理活動を通じたコミュニティ形成
- 維持管理活動に参加することによる健康増進。
- ICT技術を活用した効率的かつ効果的な公園緑地の維持管理。



想定される取組事例

緑のネットワーク整備

- シンボル道路空間の連続した緑化
- 複数の緑地整備及びそれらをつなぐ緑のネットワーク整備
⇒生態系ネットワーク形成、回遊する楽しみ創出
- 敷地単位の十分な緑地確保
⇒緑化率の最低基準の設定



社会

エコロジカルなランドスケープデザイン

- 生態系に配慮したランドスケープデザイン
（周辺環境を含めた生態系の維持に寄与する空間整備、周辺緑地を含めた緑ネットワークの形成、地域種を基調とした緑地形成による生き物の保全）
- グリーンインフラの導入
（水循環機能を持つ緑地空間の配置）
- 歴史への配慮
（周辺の鎌倉古道や区域内の宝塔、引込み線の形状等に配慮した空間整備、デザインや素材の採用）



想定される取組事例

公園・緑地を共同管理する仕組みの導入

- 区企業、従業員、居住者が共同で維持管理する仕組みを導入
- 土壌の水分センサー、樹高・樹形センサー、ドローン等を活用した効率的かつ効果的な緑の維持管理を可能とするシステムの導入
- 域内の優良な外構を表彰する制度など意欲を喚起する仕組みの導入



グリーンインフラの整備

- グリーンインフラ技術を導入した整備
⇒雨庭、ストームウォータープランター、屋上緑化、駐車場緑化等
- 調整池のグリーンインフラ化と活用



平成29年（2017年）の
戦略的視座

戦略的視座の詳細

新たな拠点として発展・成長するための居住者のコミュニティ形成支援、内外の人が文化的・経済的に交流する仕組みづくり

- スポーツ施設を基軸とする様々なイベントによる地域間交流の活性化
- 定住人口を育むための都市機能やサービス開発

スポーツを通じたコミュニティ形成

- イベント時でも平時でも人が集まれる仕様や機能を組み込み、ハード面よりソフト面を重視したスポーツ施設。
- 総合型スポーツクラブの整備

スポーツ以外のコミュニティ形成

- 子育て世代等を支援する環境創出
⇒託児施設の充実化
⇒「子育てに適したまち」としての価値やイメージの醸成

活力のあるコミュニティ形成に向けた開発の方向性

- スタジアム・アリーナ等、まちの顔となるスポーツ施設整備
- スポーツイベント等を基軸とした交流人口の活性化
- コミュニティクラブ活性化支援

平成30年度
検討の視点

H29

スポーツを通じたコミュニティ形成を重視

H30

防災、エリアマネジメント、文化活動等を通じたコミュニティ形成の視点強化

「様々な人が訪れ、集い、住まうコミュニティの強化」の方向性

平成29年検討の深掘り（一部見直し）
=平成30年度見直しの視点

スポーツ

×
ウェルネス

スポーツ・ウェルネスをベースに、多様なコミュニティのあるまちづくり

市民

多様な活動への参加によるコミュニティ形成

- スポーツに加えて、健康増進、エリアマネジメント活動、文化活動、各種ボランティア活動を地区内で展開
(健康教室、公共空間を活用したイベント、生涯学習、子育て支援、高齢者支援、外国人との交流等)
- 上記活動への参加を通じて、多様な世代、性別、ライフスタイル、人種に渡るコミュニティ形成
- 防災教育等を通じてコミュニティ形成をけん引



想定される取組事例

スポーツや健康増進プログラムへの参加によるコミュニティ形成

- スポーツコミュニティ施設の整備と活用
(各種スポーツのクラブハウス、スポーツバー等)



文化都市鎌倉のブランド・資源を活用した文化活動を通じたコミュニティ形成

- 地区周辺の大学等と連携し、居住者を対象とする学習・文化活動の機会を提供



地域活動・ボランティア活動を通じたコミュニティ形成

- 防災活動・防犯活動等のけん引
- 地区内に整備される子育て支援施設あるいは高齢者施設におけるボランティア活動



地域

コミュニティの形成や交流を促す空間、施設整備と活用

- シンボル道路沿道、路地、小径、公園・広場等がコミュニティ形成や交流を促進する空間となるように計画、設計
- 上記パブリックスペースを活用したイベント開催
(公共空間を活用したイベントを通じたコミュニティ形成、交流促進)
- スポーツを通じたコミュニティ形成のための施設整備
- 先進技術を活用したリアルとバーチャルが融合したコミュニティ
(時間と場所の制約を受けずにコミュニティへの参加を可能とするシステムの整備)



想定される取組事例

エリアマネジメント活動を通じたコミュニティ形成

- 行政施設・公園・広場等の公共空間を活用した住民主体のイベント企画運営実施
- 公園緑地の共同維持管理のけん引



先進技術を活用したコミュニティ参加支援システムの整備

- 情報インフラを活用したコミュニケーション、会議への参加や意思表示
- 情報インフラを活用したイベントや活動の周知と参加



社会

ビジネスコミュニティの形成

- オープンイノベーションを加速する地区内外に立地する企業を含めたコミュニティ形成支援、先進技術を活用



想定される取組事例

産業支援施設などを活用したビジネスコミュニティの形成

- 新たなビジネスを創発する企業間の情報交流、コミュニティ形成を促進する施設整備、インフラ整備、場の提供

